

全席車いすのカフェ「Wheelchair cafe SPRING」OPEN

お宝No.322 株式会社サポートどれみ

2023年12月、東山区にカフェ「Wheelchair cafe SPRING」がオープンしました。

車いす観光やレンタル事業もおこなう(株)サポートどれみ中村敦美さんが手がけるカフェの特徴は、車いすでお越しになる方はもちろん、車いすじゃない人も車いすに座る、触れるのが目的のカフェです。

バリアフリー対応はもちろんのこと、カフェには嚙下障害がある方の特別食があったり、障害者就労支援B型作業所でもあります。

昨年、「B型作業所も兼ねたおしゃれなカフェを東山区で作りたいんです。」とお話を伺ってから、場所探しから開業までの様々な申請に取組まれていた中村さんの頑張りが、たくさんのクラウドファンディング支援者も得て実を結びました。

「本人や家族が利用していない限り、車いすに触ったことが無いという人が多いのではないのでしょうか。それを実際に触れることによって、車いすの人に対する意識が変わったり、手を貸すハードルが下がるのでは無いかと思うのです。」とおっしゃる中村さんのユニークな取組に注目です。



クラウドファンディングでは、達成率150%超え、多くの支援者を得ることができました！

カフェは伏見稲荷にほど近い本町通り沿いにあります

【Wheelchair cafe SPRING】
〒605-0981 京都府京都市東山区
本町22丁目516 カントリーペア1F



ほほえみ広場2023ステージ出演

お宝No.271 ピア・パレードおぐらひろみ

お宝No.227 SUKIDARAKE MAFIA

2023年10月21日KBSホールで開催された「ほほえみ広場2023」に、ピア・パレードおぐらひろみさんがステージ出演されました。

ステージでは、ヘルプマークのお話の他、まちづくり・お宝バンク団体のSUKIDAKRAKE MAFIAの「上を向いて歩こう」の歌と音楽に合わせて手話ダンスを披露しました。音楽協力をくださったSUKIDARAKE MAFIAのみなさんは、同じ日にイベント出演が重なっており、おぐらさんと一緒に登壇できなかったため、事前にスタジオ収録をして音楽を届けてくださいました。

ほほえみ広場の主旨でもある、「障害があっても働けること、踊り歌えることを知り、伝え、障害をもっと身近に感じてもらう」「障害があっても少しの支援があれば様々なことができる」ことを、このイベントを通じて改めて感じました。



「見た目では分からないけれど本当は困っていて、外出の際には不安がいっぱい입니다。混雑したバスや電車などでヘルプマークを付けた困っている様子の人に気が付いたら、ぜひ声を掛けてほしい」とおぐらさんの体験を交えてお話されました。



下京区の新拠点にてさまざまなイベント開催中

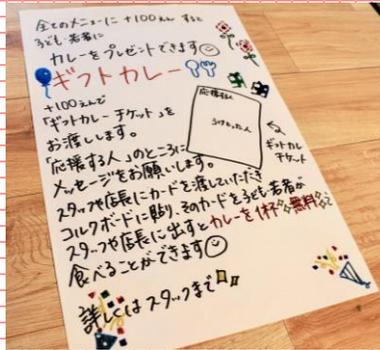
お宝No.246 コミュニティ・スペースsacula



コミュニティ・スペースsacula（西京区）の木村さんが、下京区梅小路公園近くにカフェバー＆レンタルスペース「すずなりランタン」をオープンして2年目を迎えています。コンセプトは「新しい自分に出会える、きっかけの場所」としており、毎月第3土曜日に開催している「すずらん子ども食堂」の定期事業の他にも、レンタルスペースを活用して、様々なイベントが開催されています。

「すずらん子ども食堂」

毎月第3土曜日 11時～14時
18歳以下無料、大人300円
前日16時までにLINEで予約をお願いいたします。
公式LINE
<https://lin.ee/fCCQvby>



こどもアンバサダーが活躍★「どれみ隊」イベントレポ

お宝No.19 FaSoLabo京都

食物アレルギーの子どもとその保護者の生活の質の向上を目的に活動している「どれみ隊プロジェクト」。食物アレルギーの子ども達自身がアンバサダー役となり、子ども視点での食物アレルギーへの理解や自分たちの思いを地域社会に発信し、食物アレルギーの有無に関わらず一緒に生活・成長できる地域作り・居場所作りを目的としています。イベントには食物アレルギーに関心のある方なら誰でも参加できるとのことで、2023年9月「米粉パン作り」（オンライン）と12月「商品試食会」に参加しました。



発酵時間不要ですぐ焼けるので、幼児でも完成を待てる優れたものでした。

【米粉パンづくり】

企画運営の小学生どれみ隊メンバーがオンラインで米粉パンづくりの手順を説明してくれました。今回は「いつもお母さんにつくってもらっている米粉のパンをみんなで一緒に作ってみたい！」という想いが形になったそうです。

パンが焼けるのを待つ間にはクイズ大会が。アプリを駆使して、オンラインでお絵かきクイズを出題する子供たちの様子に、デジタルネイティブ!と世代の違いを実感しました。

今回はイースト発酵不要で2時間ほどでパンができあがる、熊本製粉株式会社が提供してくださった「パンだふるパンミックス」を使用しました。それぞれの家庭で焼きあがったパンを画面越しに披露し合って実食、「もちもちしておいしい」「表面がさっくり」など感想を言い合ううちにあっという間にお皿が空になりました。

【商品試食会】

子どもたちが「食べてみたい!」と選んだ特定原料8品目不使用の商品を試食しました。この会を企画してくださったどれみ隊アンバサダーからの説明を聞いた後にみんなで調理開始。小麦粉を使わない上に簡単調理ができる食品を参加者みんなで作り、おいしくいただきました。今回調理した食品の中には、学校給食でも使われている物もあるそうで、



京都市内の小学校給食での食物アレルギー対応が各学校で少し違うことも知りました。ちょっとした疑問なども情報交換できる、このような場があることの大切さを実感しました。

◆どれみ隊 2月開催予定◆

こども大人も食物アレルギーについて一緒に学ぼう!勉強会・次年度計画
詳細は、法人HPをご確認ください。

<http://www.allergy-k.org/>

ART × DIAROG 「曲線と直線」を研修と授業で実施

お宝No.452 ART&DIALOG「曲線と直線」

【京都市職員向けの研修】

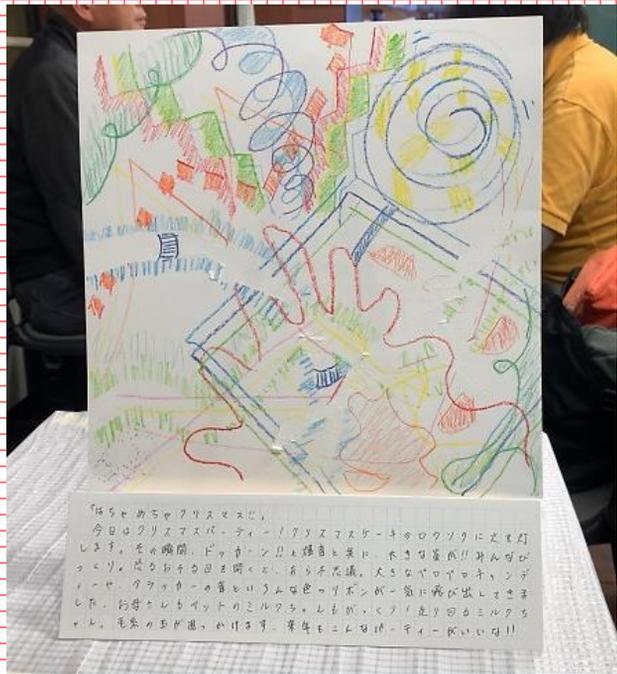
文化芸術企画課事業推進担当による、令和5年度自主研修「ART×DIALOG『曲線と直線』描いて伝える・受け入れるコミュニケーション」が、「曲線と直線」考案者で現代美術家の垂谷知明さんを講師に開催されました。

市職員向けのこの研修には20名の参加者が集い、2人1組になって絵画制作をしました。定員をオーバーして抽選になるほど人気だったようです。



大人向けの講座では、アジェンダが示されないと不安を感じる方も多いため、初めにしっかりとレクチャーを入れるそうです。京都芸術センターのレトロな教室が、会の雰囲気合っていてよかったとの感想もありました。

有志参加による研修だけあり、どなたも積極的にコミュニケーションをはかりながら取り組んでくださったとのことで、面白い作品が完成したそうです。



【短期大学の授業で「曲線と直線」ワークショップ】

文化について幅広く学ぶ学生向けの授業で「曲線と直線」を体験していただきました。

「参加者だけに自己開示を求めるのではなく、自分も皆に開示して双方向的なものを大切にしたいと思った」と仰る垂谷さん。自身の自己紹介では幼少期の話からアーティストを目指した紆余曲折の話等、踏み込んだ自己開示もしていただき、話を聞いた学生からも、垂谷さんが抱えていたという人生における“違和感”に共感する声も聞かれました。

現代美術家としての話、公共空間等にアートを展示する意味など、学生の就職先でも参考になりそうなアートの活用や関わり方などのお話も入れつつ、通常数時間を要するワークショップを、授業時間の90分間に合わせてアレンジしていただきました。

同じ学科に通っていても、普段は仲の良い友達としか接点がないという学生さんたち。今回はくじ引きで、普段は話したことのない相手とペアになり、ワークに臨みました。最初は緊張した空気のなかぎこちなさが見られたものの、レクチャーが進むにつれて、笑顔や会話の数も増え、授業時間が終わっても最後まで一緒に仕上げよう！と取り組む姿が見られました。



【学生の感想】

- ・最近スマホばかりで、色鉛筆などを使って画用紙に絵を描くことが少なくなりましたが、久しぶりにとても楽しかったです。2人でも考えずに書いた線でも、見方によって違うものに見えたり物語になったりするのがとても面白いなと思いました。楽しい講義をありがとうございました！
- ・1人の作業では出てこないような発想が2人ですること生まれ、素敵な作品が完成したなと思いました。共同作業は苦手ですが、楽しく作業することができました。